

第62回 健康公開講座

胃がんで命を失わないで!

財団法人 防府消化器病センター

顧問 岡崎 幸紀

総務課課長 河内 れい子

開催日：平成20年11月10日(月)午後7時～

会場：防府市地域交流センター

財団法人 防府消化器病センター 公益事業部

〒747-0801 山口県防府市駅南町14-33

TEL 0835-25-8707

E-mail info@hofu-icho.or.jp http://www.hofu-icho.or.jp

2、交通事故死とくらべると

全国

胃がん死亡者数 50,562人

交通事故の死者数 6,871人

山口県

胃がん死亡者数 740人

交通事故の死者数 116人

(いずれも平成17年の数)

3

1、胃がんでどのくらい?

年間死亡者数 1,084,012人

がん死亡者数 325,885人(30.1%)

肺がん 59,922人

胃がん 50,562人(がん死中15.5%)

大腸がん 40,042人

肝がん 23,421人

膵がん 22,260人

(平成17年人口動態統計、人口 1億2776万人)

2

8、胃がん対策の基本は 早期発見・早期治療である

胃がんのステージ別手術後5年生存率

ステージⅠ(早期がん) 91.2%

ステージⅡ(進行がん) 80.9%

ステージⅢ(進行がん) 54.7%

ステージⅣ(進行がん) 9.4%

(ステージが上がるほど進行している。国立がんセンター、1990～1994年)

9

9、早期胃がんの生存率

・早期胃がんの生存率(他病死を含む)

5年 全体92.2% 粘膜94.3% 粘膜下89.7%

10年 全体85.3% 粘膜85.3% 粘膜下81.2%

・他病死を除外した生存率

5年 全体98.1% 粘膜99.3% 粘膜下96.7%

10年 全体95.6% 粘膜98.6% 粘膜下91.9%

(国立がんセンター 笹子ら、1993年)

10

3、がん罹患数(がんになった人)

2001年に新たに診断されたがん患者数

(全国推計値)

568,781人(男 325,123人 女243,568人)

順位	1	2	3	4	5
男性	胃	大腸	肺	肝	前立腺
女性	大腸	乳房	胃	子宮	肺
計	胃	大腸	肺	乳房	肝

4

10、早期発見のためには

胃がん検診

健康診断の胃の検査

人間ドックの胃の検査

自己申告での胃の検査

(毎年1回は行うことが必要である)

11

11、検査法の最近の進歩

・内視鏡の進歩

電子スコープの画質の改良

拡大内視鏡の応用

経鼻内視鏡の開発

・X線検査の進歩

バリウムの改良

デジタルX線検査装置の開発

撮影法の改良

12

4、胃がんはどのようにしてできる?

正常胃粘膜 ← 発生因子



がん細胞発生 ← 増殖因子



増殖・定着



(自己発育)

診断できるがんの大きさになる

5

5、胃がんの発生因子と疑われている

・ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)

胃粘膜に慢性炎症を起こし、慢性化するとある物質が生じ、胃粘膜細胞の遺伝子に変化を与え、がん細胞が発生する。

・焼け焦げ

焼け焦げの成分は、実験胃癌に用いる薬剤に構造がよく似ている。

6

12、発見胃がんの大きさ

平成17年度消化器がん検診全国集計

10mm以下	637病巣	18.2%
11~20mm	850	24.3
21~50mm	1464	41.9
51mm以上	544	15.6
計	3495	100.0

13

13、胃がん治療法の進歩

・内視鏡的治療法の開発

内視鏡的胃粘膜切除(EMR)

内視鏡的胃粘膜下層剥離術(ESD)

・腹腔鏡下手術

・外科手術 機能温存術

・新しい抗がん剤 TS-1

14

6、胃がんの増殖因子と疑われている

・塩分

塩分の高摂取は、発生した胃がん細胞が、胃粘膜内で定着し、自分で大きくなる能力を持つまでに増殖させる。

7

7、原因が明らかでないから、胃がんの予防法は確立されていないが

・ピロリ菌はいないほうがよい。

とくに若年者。(感染して長期間を経て胃がんは発生する。)

・焼け焦げの食べものは注意したほうがよい。

・塩辛いものをたくさん摂ることは避けたほうがよい。

8

14、胃癌の内視鏡的治療の適応

・分化型がん(胃粘膜にてかたまる傾向がある)

・粘膜がん(粘膜内にとどまっている)

・20mm以下

・陥凹型はUL(-)(潰瘍変化のない)

日本胃癌学会

胃癌治療ガイドライン(2001)

15

15、内視鏡による適応拡大切除

①分化型、粘膜がん、UL(-)

②分化型、粘膜がん、UL(+), 3cm以下

③未分化型、粘膜がん、UL(-), 2cm以下

(未分化:細胞がバラバラになりやすい)

胃癌治療ガイドライン 2006 検討中

16

17、胃がんで命を失わないために

- 1年に1回はいずれかの方法で、必ず胃の検査を受けて下さい。
検診、健康診断、人間ドック、自分で申し出て
症状があるときは早く診察を。
- ピロリ菌、焼け焦げ、塩分に注意。
- 野菜や果物をこまめに。

17

ご清聴ありがとうございました。

またの機会にお会いできることを、
楽しみにいたしております。



平成20年11月10日

18

《 メモ 》